

**令和2年度
MICE総消費額等調査事業
報告書**

令和3年3月
観光庁

1. 国際MICE総消費額の調査実施内容

本事業の目的と背景／調査実施内容	2
①2016・2017・2019年度の事業および全体像の確認	3
②国際MICEの定義／③1人当たりの消費額	4
④調査対象	5
⑤調査方法	6

2. 国際MICE総消費額の算出結果

①総消費額の分析結果：国際MICEによる総消費額	11
②総消費額の分析結果：企業会議【M】	12
③総消費額の分析結果：報奨・研修旅行【I】	16
④総消費額の分析結果：国際会議【C】	19
⑤総消費額の分析結果：展示会・見本市【E】	23
⑥総消費額の分析結果：外国人参加者数の推移と消費額について	25
⑦MICE全体目標に対する達成率	27
⑧今後の継続調査に向けた課題整理	28

3. 資料編

(参考) アンケート調査票	30
(参考) 総消費額の分析結果：国際会議【C】	38
(参考) アンケート対象となる国際展示会の抽出方法	39

1. 国際MICE総消費額の調査実施内容

本事業の目的と背景／調査実施内容

本事業の目的と背景

MICEにおいては、参加者による宿泊、交通、飲食等の消費に加え、主催者による企画運営や施設利用など多額の主催者消費額が発生する。このような多様な主体による消費活動が期待できるMICEは、開催地やわが国全体に大きな経済波及効果をもたらしている。

そのため、観光庁では、2016年度（平成28年度）「MICEの経済波及効果及び市場調査事業」、2017年度（平成29年度）「MICEの経済波及効果算出等事業」等の調査によって国内で開催された国際MICE全体の経済波及効果を算出した。その分析は、2018年の「MICE国際競争力強化委員会 提言」策定に反映され、MICE関連訪日外国人消費相当額として「2020年3,000億円」「2030年8,000億円」を官民挙げて目指すべきMICE全体の目標として設定し、MICEの誘致に取り組んでいるところである。

本事業は、そのMICE全体目標の指標となる国際MICEの総消費額を算出し、継続的に目標の達成度を把握するとともに、MICEの誘致・開催の必要性や意義を普及啓発するために、調査結果の周知・活用を行うことを目的とするものである。

調査実施内容

実施目的

- 2017年度（平成29年度）に行われた「MICEの経済波及効果算出等事業」の結果を参考に、今後継続的に、MICEの経済波及効果や開催件数、参加者数等を把握するための手法を検討する
- 2019年に開催された国際MICE全体の総消費額を算出する
- MICEの誘致・開催の必要性や意義を普及啓発するために、調査結果の周知・活用を行う

実施概要

a. 2016～2019年度（平成28～令和元年度）の事業の確認

b. データ収集・アンケート実施

c. フォローアップ

d. 数値算出

目的

- 継続的な把握及び本年度の事業の進め方の情報を収集する
- 2019年に開催された国際MICEに関するデータを整理し、アンケートを実施する
- 回答率を上げ、目標件数を達成する
- 2019年開催の国際MICE全体の総消費額を算出する

実施内容

- 2016・2017・2019年度（平成28・29・令和元年度）の報告書、2018年度（平成30年度）MICEによるレガシー効果等調査事業の報告書の内容を確認し、報告書記載内容では確認できない点について再確認した
- 国際MICEそれぞれについて、必要となるデータに関係者から入手した
- 入手したデータを整理・抽出し、送付先に対してウェブアンケートを実施、データを収集した。
- 期日までに未回答の企業へ電話・メール等でアンケートへの協力を依頼した（一次締め切り後のフォローアップにより前年比回答数を上回った）
- 収集したデータを整理し、2019年開催の国際MICE全体の総消費額を算出した

実施対象

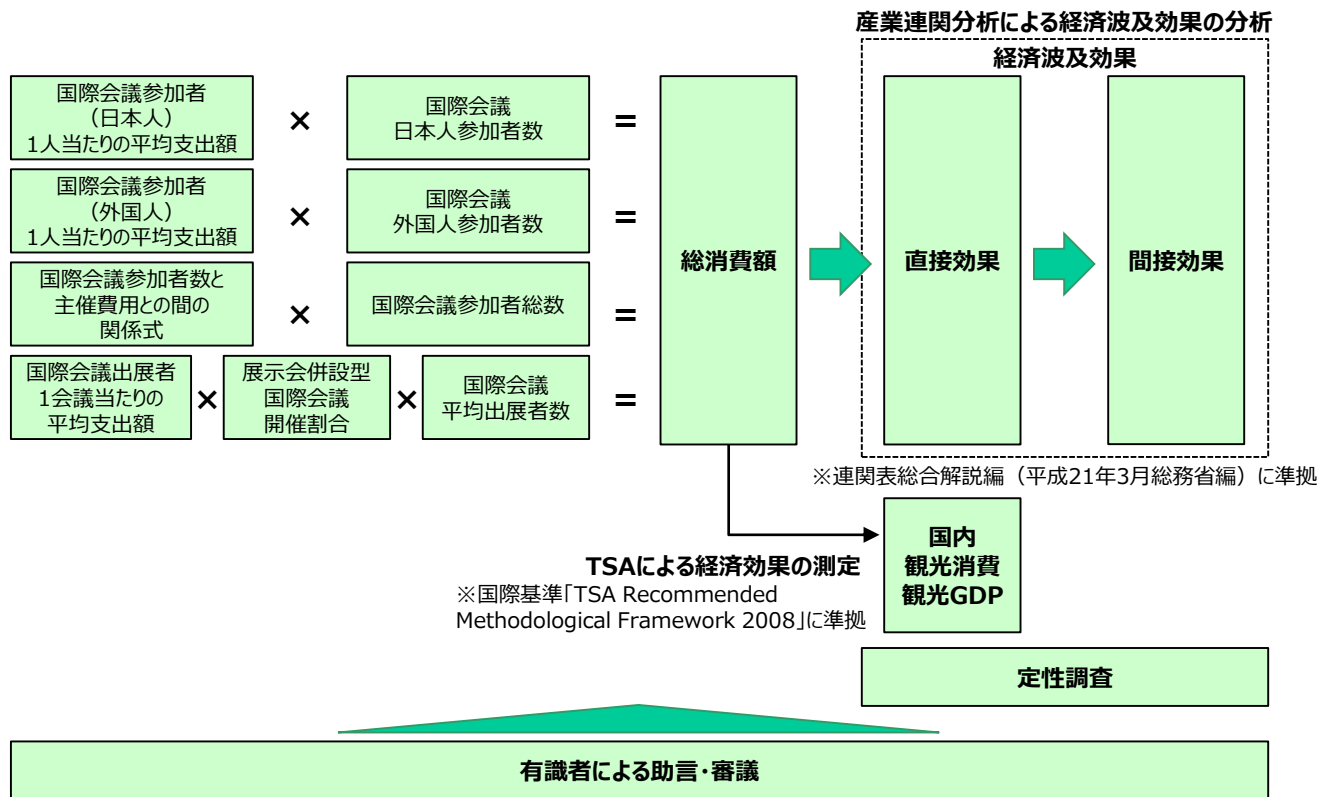
- 2016・2017年度（平成28・29年度）MICEの経済波及効果算出等事業報告書、2018年度（平成30年度）レガシー効果等調査事業、2019年度MICE総消費額等調査事業
- POP出版の「展示会データベース2020年度版」
- 国際展示会認証データ
- 日本展示会協会がまとめた国際展示会に匹敵する展示会リスト
- JNTO国際会議統計
- 期日までに回答が得られなかった企業（昨年度同様、2019年度調査で回答があった主要旅行会社、大規模展示会を取り扱っている企業等を中心に協力依頼連絡を行った）
- アンケート回答データ
- JNTO国際会議統計

①2016・2017・2019年度の事業および全体像の確認

国際会議の経済波及効果推計の全体像

(「2016年度(平成28年度)MICEの経済波及効果及び市場調査事業」報告書P.21より)

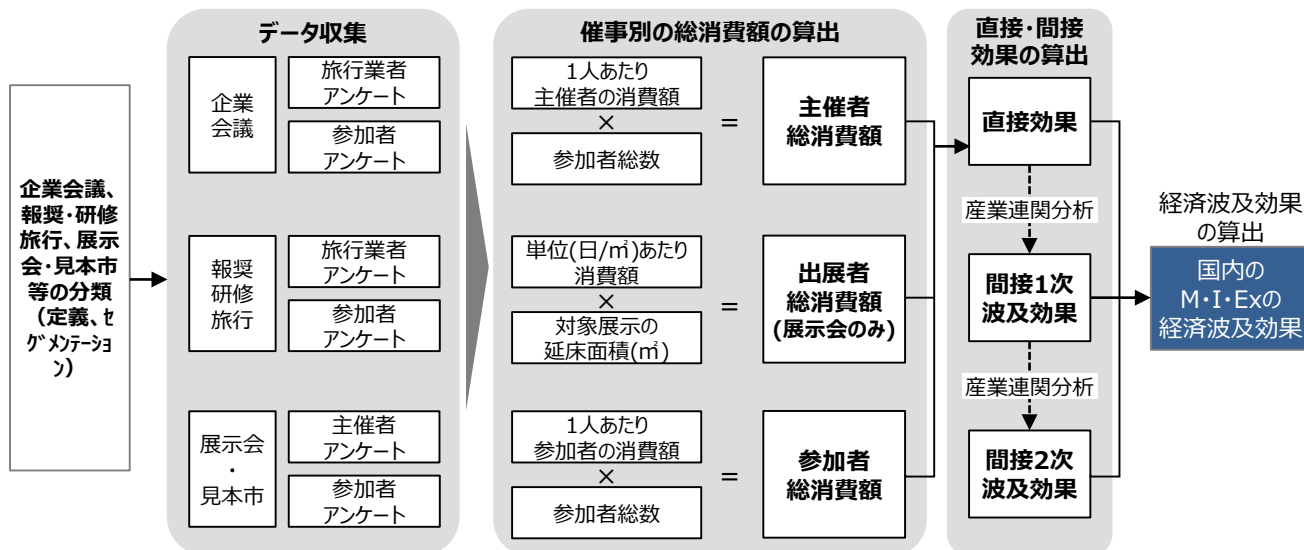
図表 調査の全体像



企業会議、報奨・研修旅行、展示会・見本市の経済波及効果推計の全体像

(「2017年度(平成29年度)MICEの経済波及効果算出等事業」報告書P.33より)

図表39 本事業における経済波及効果算出の全体像



②国際MICEの定義／③1人当たりの消費額

②国際MICEの定義

本調査事業における国際MICEの定義は下記の通りである。
(アンケート調査票は資料編P.30～37に記載)

種別	本調査における国際MICEの基準
企業会議【M】	参加者数10名以上（海外からの外国人参加者含む）、4時間以上の開催、外部の施設の利用
報奨・研修旅行【I】	参加者数10名以上、4時間以上の開催、外部の施設の利用・訪問、海外発日本着の催事
国際会議【C】	JNTO（日本政府観光局）の基準による国際会議を対象。JNTOによる国際会議の定義は、参加者総数50名以上、日本を含む3カ国以上が参加、1日以上開催期間の条件を満たした会議
展示会等【E】	日本展示会認証協議会（JECC）により国際展示会の認証（海外来場者数5%以上又は海外出展者数10%以上）を取得している展示会を対象。また、認証を取得していないものの同様の海外来場者・出展者数の基準を満たした展示会も対象

③1人当たりの消費額

2019年に開催された国際MICEによる総消費額の算出にあたり利用した「国際MICEによる1人当たり消費額」及び「展示会・見本市【E】による日/㎡当たり消費額」は、2016年度・2017年度MICEの経済波及効果算出等事業で利用した値と同じ値を活用した。

国際MICEによる1人当たり消費額

- ・「2016年度（平成28年度）MICEの経済波及効果及び市場調査事業」にて算出された単価
- ・「医学」とは、JNTO国際会議統計における「医学」分野の国際会議を指す。

	国際会議【C】							
	（三大都市医学）		（三大都市医学以外）		（その他都市医学）		（その他都市医学以外）	
	日本人	外国人	日本人	外国人	日本人	外国人	日本人	外国人
主催者	67,014円		56,084円		152,422円		103,931円	
参加者	52,933円	344,151円	34,085円	294,806円	78,327円	251,469円	74,536円	159,237円
出展者	12,356円		53,780円		3,752円		7,802円	

- ・「2017年度（平成29年度）MICEの経済波及効果算出等事業」にて算出された単価

	企業会議【M】		報奨・研修旅行【I】	展示会・見本市【E】	
	日本人	外国人		日本人	外国人
主催者	183,428円		248,120円	8,881円	
参加者	0円	141,641円	71,600円	18,031円	237,606円
出展者	-		-	28,406円	

- ・展示会・見本市【E】による日/㎡当たり消費額

	展示会・見本市【E】	
主催者	2,881円	(総展示面積換算)
出展者	26,293円	(総出展面積換算)

④ 調査対象

国際会議【M】及び報奨・研修旅行【I】の参加者数は、旅行者に対してウェブアンケートにより把握した。国際会議【C】の参加者数は、JNTO国際会議統計により把握した。展示会・見本市【E】に関する諸項目は、主催者へ郵送によるアンケート及びウェブアンケートを実施した。

	対象	配布方法	配布数	回収数	有効回答数
企業会議【M】	<ul style="list-style-type: none"> JATA会員 OTOA会員 中連協会員 	<ul style="list-style-type: none"> JATA会員及び中連協会員には、両協会からメールにてウェブアンケートのご案内を実施した OTOA会員33社については、メルマガにてウェブアンケートのご案内を実施した 	<ul style="list-style-type: none"> JATA会員1,501社 (1種:624社) OTOA会員 (インバウンド) 33社 中連協会員 320社 	142件	116件 (前年114件)
報奨・研修旅行【I】				140件	137件 (前年119件)
展示会・見本市【E】	<ul style="list-style-type: none"> 日本展示会認証協議会より、「国際展示会」の認証を受けた展示会リスト POP出版の「展示会データベース2020年度版」 日本展示会協会より、国際展示会に匹敵すると判断された展示会のリスト 	<ul style="list-style-type: none"> 催事の主催者に郵送にて案内文を送付、回答についてはウェブアンケートを実施した 	<ul style="list-style-type: none"> 認証展示会:6件 国際展示会に匹敵する展示会:58件 その他:121件 合計185件 	117件	70件 (前年48件)

⑤調査方法（企業会議【M】の消費額算出方法）

企業会議【M】における算出計算式

	収集したデータ項目	算出方法
企業会議【M】	<ul style="list-style-type: none"> 旅行業者ごとの【M】の取扱い有無 「企業内会議」、「顧客セミナー」、「研修・視察」、「式典」の4つの種類ごとの外国人・日本人参加者数 	<ul style="list-style-type: none"> 回答旅行業者ごとの【M】の取扱い有無及び「旅行業者利用比率」の回答を通じて【M】全体の市場規模を推計し、4つの種類ごとの外国人・日本人参加者数を推計した 【M】の総消費額は、主催者消費額と参加者消費額の合計とする 主催者消費額は、日本人参加者数と外国人参加者数の合計に上記で推計した参加者数に1人当たりの主催者消費額を乗じることで算出した。参加者消費額は、上記で推計した外国人参加者数に外国人参加者1人当たりの消費額を乗じることで算出した

企業会議【M】4つの種類

		主たる参加者	
		社員、販売員、販売代理店、サプライヤー	顧客
主たる目的	会議・商談	1 企業ミーティング	
	教育・研修・セミナー	2 研修視察 (報奨・研修旅行は含まない)	3 顧客セミナー
	交流・表彰・パーティー	4 式典	

企業会議【M】における参加者数（日本人・外国人）の算出方法

$$\text{アンケート調査票から集計した参加者数 (人)} \times \frac{1}{\text{旅行業者利用率 (\%)}} \times \frac{1}{\text{観光庁調査対象シェア (\%)}} = \text{市場全体の参加者人数を推計 (人)}$$

- ※1 旅行業者利用率：企業会議【M】は、主催企業が旅行業者を利用する場合と利用しない場合が存在する。本事業では旅行業者に対するアンケート調査により一般的に旅行業者を利用する比率を把握し、旅行業者利用率とした。
- ※2 観光庁調査対象シェア：観光庁が毎月公開している主要旅行業者の外国人旅行取扱額を元に算出した、主要旅行業者のうち本調査に回答した旅行業者がもつ取扱額のシェアを、観光庁調査対象シェアとした。シェアで割り戻すことにより、主要旅行業者で回答のなかった企業の取扱額も推計した。なお、観光庁調査対象企業については観光庁調査対象シェアを乗じるが、観光庁調査非対象企業からの回答については、観光庁調査対象シェアを乗じずに積算した。

企業会議【M】における消費額の算出方法

主催者消費額	日本人参加者および外国人参加者の合計人数 (人) × 183,428円 = 主催者消費額 (円)	1人当たり	企業会議【M】	
			日本人	外国人
参加者消費額	外国人参加者の合計人数 (人) × 141,641円 = 参加者消費額 (円)	主催者	183,428円	
		参加者	0円	141,641円

※3 主催者の消費額は、日本人、外国人ともに同額にて試算。

※4 日本人参加者の個人的な消費はごくわずかであることが予想されるため0円として試算。

⑤調査方法（報奨・研修旅行【I】の消費額算出方法）

総消費額算出実施概要

	収集したデータ項目	算出方法
報奨・研修旅行【I】	<ul style="list-style-type: none"> 旅行業者ごとの【I】の取扱い有無 【I】全体での外国人参加者数 	<ul style="list-style-type: none"> 回答旅行業者ごとの【I】の取扱い有無を通じて、【I】全体の市場規模と外国人参加者数を推計した 上記で推計した参加者数に1人当たりの主催者及び参加者消費額を乗じること、主催者及び参加者の総消費額を算出した

報奨・研修旅行【I】における参加者数（外国人）の算出方法

$$\text{アンケート調査票から集計した外国人参加者数（人）} \times \frac{1}{\text{観光庁調査対象}^{\ast 1} \text{シェア（\%）}} = \text{市場全体の外国人参加者人数を推計（人）}$$

※1 観光庁調査対象企業については観光庁調査対象シェアを乗じるが、観光庁調査非対象企業からの回答については、観光庁調査対象シェアを乗じずに積算した

報奨・研修旅行【I】における消費額の算出方法

$$\text{アンケート調査票から集計した外国人参加者数（人）} \times 248,120\text{円} = \text{主催者消費額（円）}$$

$$\text{アンケート調査票から集計した外国人参加者数（人）} \times 71,600\text{円} = \text{参加者消費額（円）}$$

1人当たり	報奨・研修旅行【I】
主催者	248,120円
参加者	71,600円
出展者	-

⑤ 調査方法（国際会議【C】の消費額算出方法）

総消費額算出実施概要

	収集したデータ項目	算出方法
国際会議【C】	<ul style="list-style-type: none"> 医学と医学以外の分野ごとの外国人・日本人参加者数 三大都市圏と三大都市圏以外の開催地ごとの外国人・日本人参加者数 	<ul style="list-style-type: none"> JNTO国際会議統計により把握した分野ごと、開催地ごとにまとめた外国人・日本人参加者数に、1人当たりの参加者・主催者・出展者の消費額を乗じることで、参加者・主催者・出展者の総消費額を算出した

国際会議【C】における参加者数（日本人・外国人）の算出方法

$$\text{JNTO国際会議統計により把握した参加者数（人）} = \text{市場全体の参加者人数（人）}$$

国際会議【C】における消費額の算出方法（下記a～hは、表に該当する各参加者数）

主催者消費額	$(a+b) \times 67,014\text{円} + (c+d) \times 56,084\text{円} + (e+f) \times 152,422\text{円} + (g+h) \times 109,931\text{円}$	=	主催者消費額 (円)
参加者消費額	$(a \times 52,933\text{円}) + (b \times 344,151\text{円}) + (c \times 34,085\text{円}) + (d \times 294,806\text{円}) + (e \times 78,327\text{円}) + (f \times 251,469\text{円}) + (g \times 74,536\text{円}) + (h \times 159,237\text{円})$	=	参加者消費額 (円)
出展者消費額	$(a+b) \times 12,356\text{円} + (c+d) \times 53,780\text{円} + (e+f) \times 3,752\text{円} + (g+h) \times 7,802\text{円}$	=	出展者消費額 (円)

1人 当たり	国際会議【C】							
	（三大都市医学）		（三大都市医学以外）		（その他都市医学）		（その他都市医学以外）	
	a.日本人	b.外国人	c.日本人	d.外国人	e.日本人	f.外国人	g.日本人	h.外国人
主催者	67,014円		56,084円		152,422円		103,931円	
参加者	52,933円	344,151円	34,085円	294,806円	78,327円	251,469円	74,536円	159,237円
出展者	12,356円		53,780円		3,752円		7,802円	

⑤調査方法（展示会・見本市【E】の消費額算出方法）

総消費額算出実施概要

	収集したデータ項目	算出方法
展示会・見本市【E】	<ul style="list-style-type: none"> 国際展示会の定義に合致する【E】 上記【E】の外国人・日本人参加者数及び展示会場総面積・総出展面積 	<ul style="list-style-type: none"> 国際展示会の定義に合致する【E】の外国人・日本人参加者数に参加者1人あたり消費額を乗じることで、参加者の総消費額を算出した 展示会場総面積及び総出展面積に、主催者及び出展者の面積当たりの消費額を乗じることで、主催者及び出展者の総消費額を算出した

展示会・見本市【E】における参加者数の算出方法

$$\text{アンケート調査票から集計した参加者数（人）} = \text{市場全体の参加者人数（人）}$$

展示会・見本市【E】における消費額の算出方法

$$\text{主催者消費額} = \text{アンケート調査票から集計した展示会場総面積（日/㎡）} \times 2,881\text{円} = \text{主催者消費額（円）}$$

$$\text{参加者消費額} = \left(\begin{array}{l} \text{アンケート調査票から集計した} \\ \text{日本人参加者数（人）} \\ \text{アンケート調査票から集計した} \\ \text{外国人参加者数（人）} \end{array} \right) \times \begin{array}{l} 18,031\text{円} \\ 237,606\text{円} \end{array} + = \text{参加者消費額（円）}$$

$$\text{出展者消費額} = \text{アンケート調査票から集計した総出展面積（日/㎡）} \times 26,293\text{円} = \text{出展者消費額（円）}$$

日/㎡あたり	展示会・見本市【E】
主催者	2,881円
出展者	26,293円

1人あたり	展示会・見本市【E】	
	日本人	外国人
主催者	8,881円 ※	
参加者	18,031円	237,606円
出展者	28,406円 ※	

※ 主催者消費額及び出展者消費額は、日/㎡当たりの単価を用い、面積に応じた消費額を算出した

2. 国際MICE総消費額の算出結果

①総消費額の分析結果：国際MICEによる総消費額

2019年の国際MICEによる総消費額は、約9,228.6億円と2016年比で171%（約3,844.4億円増）、2018年比で113%（約1,031.6億円増）とこの4年間で着実に増加している。分野別にみると、企業会議【M】は約3,786.8億円と2016年比で489%（約3,011.9億円増）、2018年比で140%（約1,090.6億円増）となった。報奨・研修旅行【I】は約249.7億円と2016年比で72%（約98.1億円減）、2018年比で50%（約248.5億円減）となった。国際会議【C】は、約3,573.0億円と2016年比で104%（約127.7億円増）、2018年比で105%（約184.8億円増）となった。展示会・見本市【E】は、約1,619.0億円と2016年比で198%（約802.8億円）、2018年比で100%（約4.6億円増）となった。

企業会議【M】は4年連続増加している。報奨・研修旅行【I】は2018年までは増加していたが、2019年で減少した。国際会議【C】は2017年に減少したが、2018年より増加している。展示会・見本市【E】は2018年までは増加していたが、2019年で横ばいとなっている。

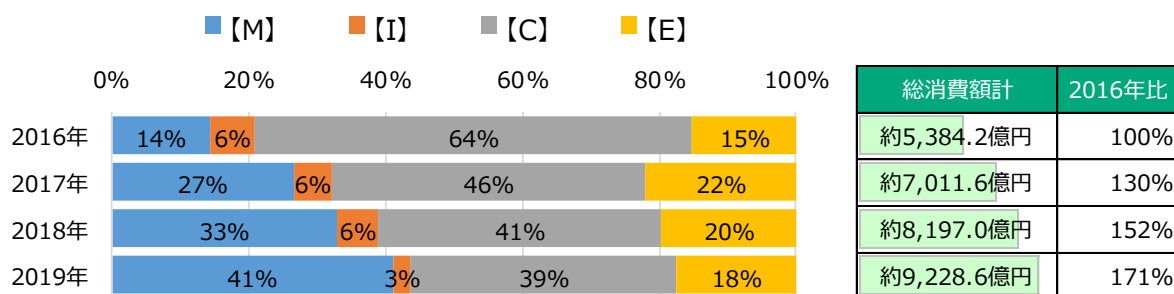
2016-2019年国際MICEによる総消費額

年	企業会議【M】	報奨・研修旅行【I】	国際会議【C】	展示会・見本市【E】	計
2016年	約774.9億円	約347.8億円	約3,445.3億円	約816.2億円	約5,384.2億円
2017年	約1,861.6億円	約391.8億円	約3,211.2億円	約1,547.0億円	約7,011.6億円
2018年	約2,696.2億円	約498.2億円	約3,388.2億円	約1,614.4億円	約8,197.0億円
2019年	約3,786.8億円	約249.7億円	約3,573.0億円	約1,619.0億円	約9,228.6億円

※合計消費額は端数処理（四捨五入）により各項目の合計と一致しない

国際MICEによる総消費額に占める企業会議【M】のシェアは毎年拡大しており、2016年では14%であったのが、2017年には27%、2018年には33%、2019年には41%と増加している。報奨・研修旅行【I】は2016-2018年が6%であったのが、2019年には3%と減少している。国際会議【C】は2016年では64%であったが、2017年には46%、2018年には41%、2019年には39%と減少している。展示会・見本市【E】は2016年では15%、2017年には22%と増加したが、2018年では20%、2019年には18%と減少している。

国際MICEによる総消費額と構成比（2016-2019年）



※構成比は端数処理（四捨五入）により合計が必ずしも100とはならない

総消費額計	2016年比
約5,384.2億円	100%
約7,011.6億円	130%
約8,197.0億円	152%
約9,228.6億円	171%

②総消費額の分析結果：企業会議【M】－ 1

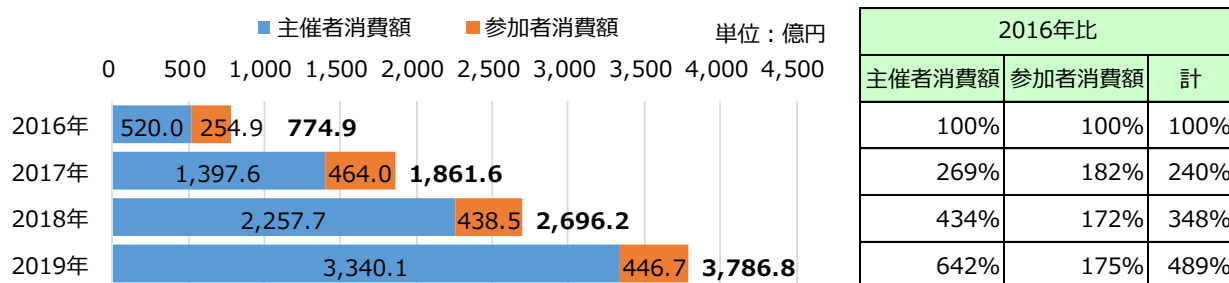
2019年の企業会議【M】の消費額は、約3,786.8億円と2016年比で489%（約3,011.9億円増）、2018年比で140%（約1,090.6億円増）なった。内訳をみると、主催者消費額は約3,340.1億円と2016年比で642%（約2,820.1億円増）、2018年比で148%（約1,082.4億円増）となり、参加者消費額は約446.7億円と2016年比で175%（約191.8億円増）、2018年比で102%（約8.2億円増）となった。

2016年-2019年の内訳の推移をみると、主催者消費額は4年連続増加しているが、参加者消費額は2017年で増加したが、2018年から横ばいとなっている。

企業会議【M】の消費額（2016-2019年）

年	主催者消費額	参加者消費額	計
2016年	約520.0億円	約254.9億円	約774.9億円
2017年	約1,397.6億円	約464.0億円	約1,861.6億円
2018年	約2,257.7億円	約438.5億円	約2,696.2億円
2019年	約3,340.1億円	約446.7億円	約3,786.8億円

企業会議【M】の消費額（2016-2019年）

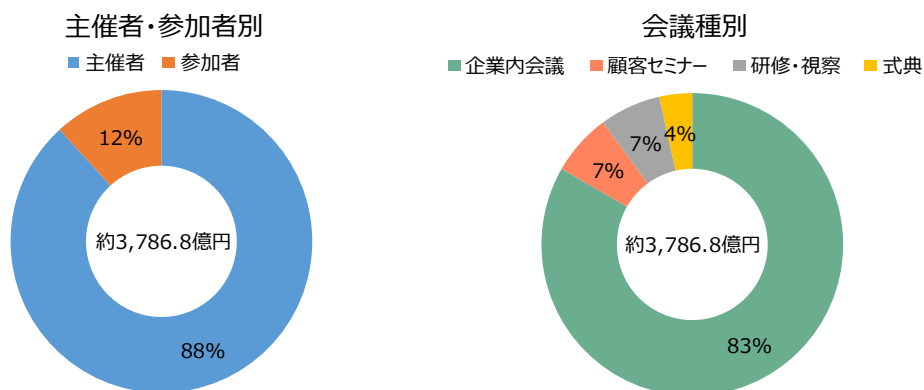


2019年の企業会議【M】の消費額の割合を主催者・参加者別にみると、主催者の消費額は全体の88%を占め、参加者の消費額は12%となった。

2019年の企業会議【M】の消費額の割合を会議種別にみると、企業内会議（83%）、顧客セミナーと研修・視察（7%）、式典（4%）の順で全体に占める割合が高い。

企業会議【M】の総消費額（2019年）

※構成比は端数処理（四捨五入）により合計が必ずしも100とはならない



②総消費額の分析結果：企業会議【M】－ 2

2019年の企業会議【M】の参加者数は、1,820,937人と2016年比で642%（1,537,436人増）、2018年比で148%（590,107人増）となった。内訳をみると、日本人参加者は1,505,529人と2016年比で1,454%（1,401,974人増）、2018年比で163%（584,302人増）となり、外国人参加者は315,408人と2016年比で175%（135,462人増）、2018年比で102%（5,804人増）となった。

2016年-2019年の参加者数の推移を会議種別に見ると、企業内会議は4年連続増加し、2019年では大幅に増加した。顧客セミナーは2018年まで増加していたが、2019年で大幅に減少した。研修・視察は2017年で増加したが、2018年から減少している。式典は2018年まで増加していたが、2019年で減少している。

企業会議の参加者数は、回答した旅行業者の集計方法の変化により大きく変動する結果となった。

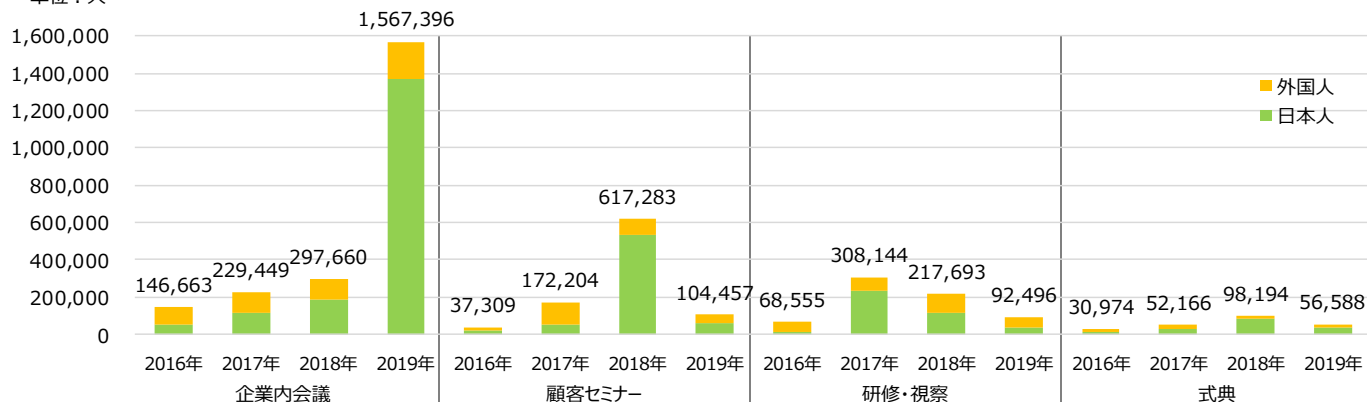
企業会議【M】の会議種別参加者数の推計結果（2016-2019年）

企業会議種類	年	日本人	外国人	計
企業内会議	2016年	56,024人	90,639人	146,663人
	2017年	112,647人	116,801人	229,449人
	2018年	186,737人	110,924人	297,660人
	2019年	1,369,532人	197,864人	1,567,396人
顧客セミナー	2016年	21,462人	15,847人	37,309人
	2017年	53,799人	118,404人	172,204人
	2018年	537,976人	79,308人	617,283人
	2019年	63,262人	41,195人	104,457人
研修・視察	2016年	10,679人	57,876人	68,555人
	2017年	235,165人	72,978人	308,144人
	2018年	115,866人	101,826人	217,693人
	2019年	37,117人	55,379人	92,496人
式典	2016年	15,390人	15,584人	30,974人
	2017年	32,789人	19,377人	52,166人
	2018年	80,648人	17,546人	98,194人
	2019年	35,619人	20,970人	56,588人
計	2016年	103,555人	179,946人	283,501人
	2017年	434,401人	327,561人	761,961人
	2018年	921,227人	309,604人	1,230,830人
	2019年	1,505,529人	315,408人	1,820,937人

※合計人数は端数処理（四捨五入）により各項目の合計と一致しない

企業会議【M】の会議種別参加者数（2016-2019年）

単位：人



②総消費額の分析結果：企業会議【M】－3

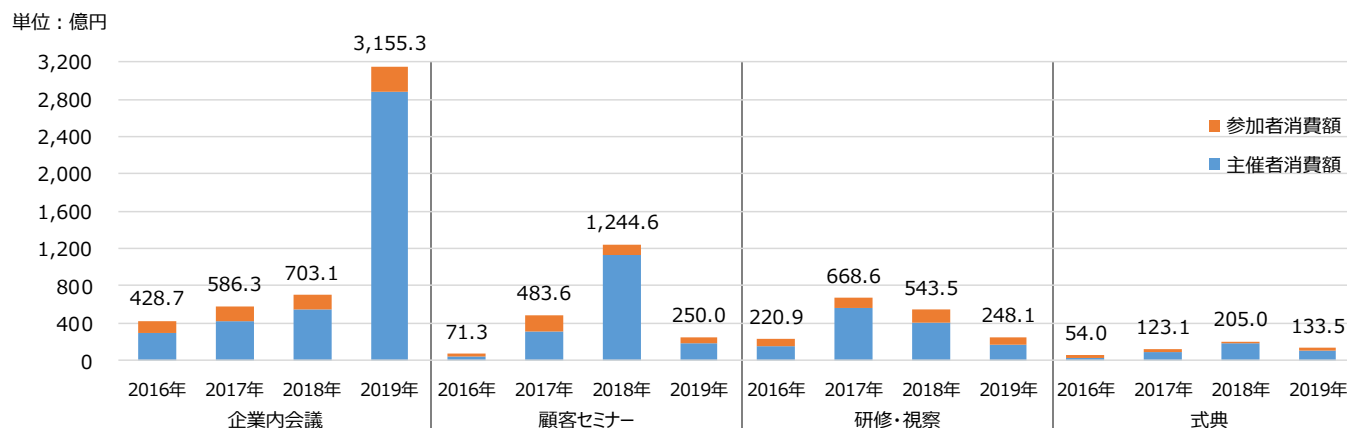
2019年の企業会議【M】の消費額を会議種別にみると、企業内会議は約3,155.3億円と2016年比で736%（約2,726.6億円増）、2018年比で449%（約2,452.2億円増）となり、特定の旅行会社の企業内会議の取扱い人数が2018年に比十万人単位で増加したケースがあり、企業内会議の消費額が増加した大きな要因となった。顧客セミナーは約250.0億円と2016年比で351%（約178.7億円）、2018年比で20%（約994.6億円減）となり、研修・視察は約248.1億円と2016年比で112%（約27.2億円増）、2018年比で46%（約295.4億円減）となり、式典は約133.5億円と2016年比で247%（約79.5億円増）、2018年比で65%（約71.5億円減）となった。

企業会議【M】の会議種別消費額（2016-2019年）

企業会議種類	年	主催者消費額	参加者消費額	計
企業内会議	2016年	約300.3億円	約128.4億円	約428.7億円
	2017年	約420.9億円	約165.4億円	約586.3億円
	2018年	約546.0億円	約157.1億円	約703.1億円
	2019年	約2,875.0億円	約280.3億円	約3,155.3億円
顧客セミナー	2016年	約48.9億円	約22.4億円	約71.3億円
	2017年	約315.9億円	約167.7億円	約483.6億円
	2018年	約1,132.3億円	約112.3億円	約1,244.6億円
	2019年	約191.6億円	約58.3億円	約250.0億円
研修・視察	2016年	約145.8億円	約82.0億円	約220.9億円
	2017年	約565.2億円	約103.4億円	約668.6億円
	2018年	約399.3億円	約144.2億円	約543.5億円
	2019年	約169.7億円	約78.4億円	約248.1億円
式典	2016年	約31.9億円	約22.1億円	約54.0億円
	2017年	約95.7億円	約27.4億円	約123.1億円
	2018年	約180.1億円	約24.9億円	約205.0億円
	2019年	約103.8億円	約29.7億円	約133.5億円
計	2016年	約520.0億円	約254.9億円	約774.9億円
	2017年	約1,397.6億円	約464.0億円	約1,861.6億円
	2018年	約2,257.7億円	約438.5億円	約2,696.2億円
	2019年	約3,340.1億円	約446.7億円	約3,786.8億円

※合計消費額は端数処理（四捨五入）により各項目の合計と一致しない

企業会議【M】の会議種別消費額（2016-2019年）



②総消費額の分析結果：企業会議【M】－4（RWC2019関連）

2019年の企業会議【M】では、ラグビーワールドカップ2019日本大会（以下「RWC2019」）に関連する取扱い件数と人数の質問を新たに設けた。

企業内会議は、回答社数が16社のうちRWC2019に関連する取扱いがあったのは6社、取扱いがなかったのは10社となった。取扱いがあった6社の件数計は20件、人数計は2,447人となった。顧客セミナーは、回答社数が8社のうちRWC2019に関連する取扱いがあったのは2社、取扱いがなかったのは6社となった。取扱いがあった2社の件数計は9件、人数計は776人となった。研修・視察は、回答社数が28社のうちRWC2019に関連する取扱いがあったのは3社、取扱いがなかったのは25社となった。取扱いがあった3社の件数計は25件、人数計は2,254人となった。式典は、回答社数が9社のうちRWC2019に関連する取扱いがあったのは2社、取扱いがなかったのは7社となった。取扱いがあった2社の件数計は6件、人数計は530人となった。

企業会議【M】のラグビーワールドカップ2019日本大会（RWC2019）に関連する件数と人数

企業会議種類	回答社数（RWC2019関連の取扱いあり）	件数計	人数計
企業内会議	16社（6社）	20件	2,447人
顧客セミナー	8社（2社）	9件	776人
研修・視察	28社（3社）	25件	2,254人
式典	9社（2社）	6件	530人
RWC2019関連 計	61社（13社）	60件	6,007人

※RWC2019関連の計の回答社数は同一旅行業者の重複分を含む

③総消費額の分析結果：報奨・研修旅行【I】－ 1

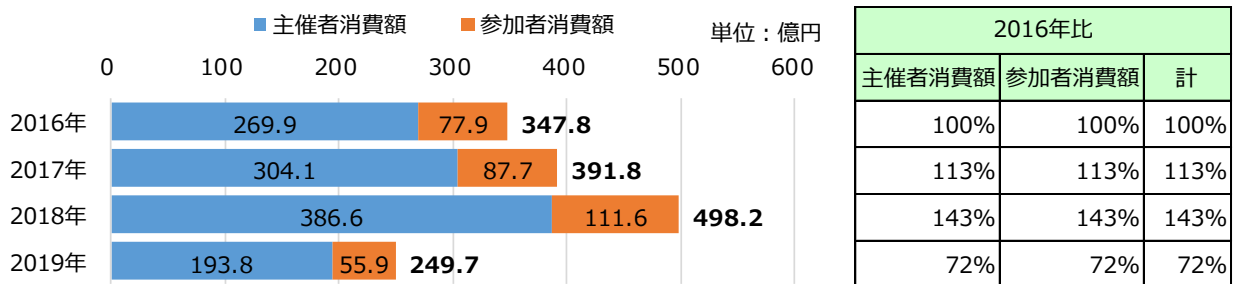
2019年の報奨・研修旅行【I】の消費額は、約249.7億円と2016年比で72%（約98.1億円減）、2018年比で50%（約248.5億円減）となった。内訳をみると、主催者消費額は約193.8億円と2016年より約76.1億円減、参加者消費額は約55.9億円と2016年より約22.0億円減となった。報奨・研修旅行【I】の消費額算出方法により、主催者消費額および参加者消費額の伸び率は参加者人数の伸び率に依存することとなる。

2019年の報奨・研修旅行【I】の消費額が減少した大きな要因は、特定の旅行会社の報奨・研修旅行の取扱い人数が前年に比べ万単位で減少したことにある。

報奨・研修旅行【I】の消費額（2016-2019年）

年	主催者消費額	参加者消費額	計
2016年	約269.9億円	約77.9億円	約347.8億円
2017年	約304.1億円	約87.7億円	約391.8億円
2018年	約386.6億円	約111.6億円	約498.2億円
2019年	約193.8億円	約55.9億円	約249.7億円

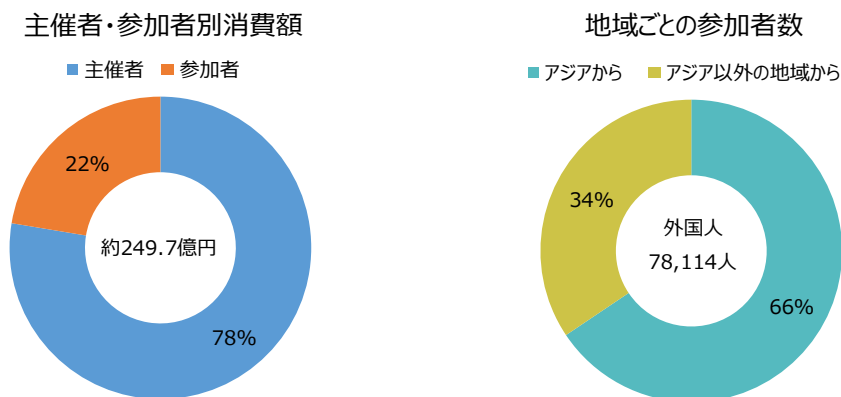
報奨・研修旅行【I】の消費額（2016-2019年）



2019年の報奨・研修旅行【I】の消費額の割合を主催者・参加者別にみると、主催者の消費額は全体の78%を占め、参加者の消費額は22%となった。

2019年の報奨・研修旅行【I】の地域ごとの参加者数の割合をみると、アジアからの参加者数は66%、アジア以外の地域からの参加者数は34%となった。

報奨・研修旅行【I】の総消費額と参加者数（2019年）



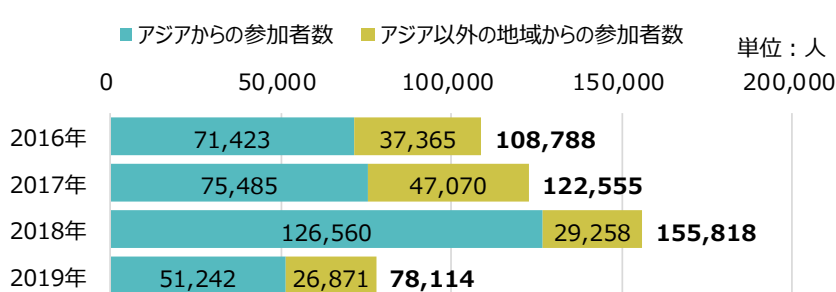
③総消費額の分析結果：報奨・研修旅行【I】－ 2

報奨・研修旅行【I】の参加者数は、定義より全て外国人参加者数としてカウントしている。2019年の参加者数の全体は78,114人と2016年比で72%（30,674人減）、2018年比で50%（77,704人減）となった。内訳をみると、アジアからの参加者数は51,242人と2016年比で72%（20,181人減）、2018年比で40%（75,318人減）、アジア以外の地域からの参加者数は26,871人と2016年比で72%（10,494人減）、2018年比で92%（2,387人減）となった。アジアからの参加者数、アジア以外の地域からの参加者数は4年間で2019年が最も少ない。

報奨・研修旅行【I】の参加者数の推計結果（2016-2019年）

年	アジアからの参加者数	アジア以外の地域からの参加者数	計
2016年	71,423人	37,365人	108,788人
2017年	75,485人	47,070人	122,555人
2018年	126,560人	29,258人	155,818人
2019年	51,242人	26,871人	78,114人

報奨・研修旅行【I】の参加者数の推計結果（2016-2019年）



2016年比		
アジアからの参加者数	アジア以外の地域からの参加者数	計
100%	100%	100%
106%	126%	113%
177%	78%	143%
72%	72%	72%

③総消費額の分析結果：報奨・研修旅行【I】－3（RWC2019関連）

2019年の報奨・研修旅行【I】では、ラグビーワールドカップ2019日本大会（以下「RWC2019」）に関連する取扱い件数と人数の質問を新たに設けた。

回答社数が41社のうちRWC2019に関連する取扱いがあったのは2社、取扱いがなかったは39社となった。取扱いがあった2社の件数計は124件、うちアジア発案件は7件、欧米・その他発案件は117件となった。人数計では4,970人、うちアジア発案件は700人、欧米・その他発案件は4,270人となった。

報奨・研修旅行【I】のラグビーワールドカップ2019日本大会（RWC2019）に関連する件数と人数

回答社数：41社（うちRWC2019関連の取扱いあり2社）

案件種類	件数計	人数計
アジア発案件	7件	700人
欧米・その他発案件	117件	4,270人
RWC2019関連 計	124件	4,970人

④総消費額の分析結果：国際会議【C】－1

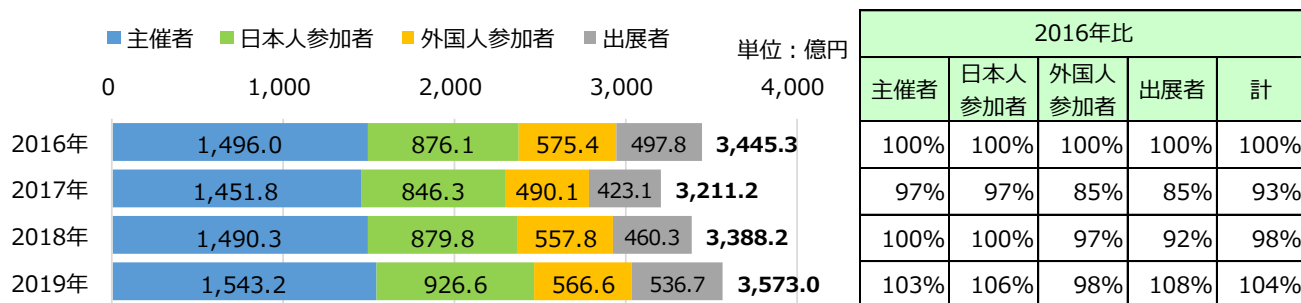
2019年の国際会議【C】の消費額は、約3,573.0億円と2016年比で104%（約127.7億円増）、2018年比で105%（約184.8億円増）となった。内訳をみると、主催者消費額は約1,543.2億円と2016年比で103%（約47.2億円増）、2018年比で104%（約52.9億円増）となり、日本人参加者消費額は約926.6億円と2016年比で106%（約50.5億円増）、2018年比で105%（約46.8億円増）となり、外国人参加者消費額は約566.6億円と2016年比で98%（約8.8億円減）、2018年比で102%（約8.8億円増）となり、出展者消費額は約536.7億円と2016年比で108%（約38.9億円増）、2018年比で117%（約76.4億円増）となった。

国際会議【C】の消費額（2016-2019年）

年	主催者消費額	参加者消費額		出展者消費額	計	開催件数
		日本人	外国人			
2016年	約1,496.0億円	約876.1億円	約575.4億円	約497.8億円	約3,445.3億円	3,121件
2017年	約1,451.8億円	約846.3億円	約490.1億円	約423.1億円	約3,211.2億円	3,313件
2018年	約1,490.3億円	約879.8億円	約557.8億円	約460.3億円	約3,388.2億円	3,433件
2019年	約1,543.2億円	約926.6億円	約566.6億円	約536.7億円	約3,573.0億円	3,621件

※合計消費額は端数処理（四捨五入）により各項目の合計と一致しない

国際会議【C】の消費額（2016-2019年）



2019年の国際会議【C】の開催件数は、3,621件と2016年比で116%、2018年比で105%となった。地域・分野別にみると、三大都市圏の医学分野の開催件数は424件と2016年比で109%、2018年比で88%となり、三大都市圏の医学以外の分野は2,004件と2016年比で127%、2018年比で111%となった。その他都市の医学分野の開催件数は207件と2016年比で108%、2018年比で95%となり、その他都市の医学以外の分野は986件と2016年比で103%、2018年比で107%となった。

国際会議【C】の開催件数（2016-2019年）

年	三大都市圏		その他都市		計
	医学	医学以外	医学	医学以外	
2016年	388件	1,582件	192件	959件	3,121件
2017年	370件	1,790件	219件	934件	3,313件
2018年	484件	1,806件	218件	925件	3,433件
2019年	424件	2,004件	207件	986件	3,621件

※合計消費額は端数処理（四捨五入）により各項目の合計と一致しない

④総消費額の分析結果：国際会議【C】－2

2019年の国際会議【C】の消費額を地域・分野別にみると、三大都市圏の医学分野の消費額は約996.3億円と2016年比で120%、2018年比で108%となり、三大都市圏の医学以外の分野は約1,442.2億円と2016年で107%、2018年比で118%となった。その他都市の医学分野の消費額は約487.5億円と2016年比で90%、2018年比で83%となり、その他都市の医学以外の分野は約647.0億円と2016年比で88%、2018年比で100%となった。

国際会議【C】の地域・分野別消費額（2016-2019年）

年	三大都市圏		その他都市		計
	医学	医学以外	医学	医学以外	
2016年	約827.2億円	約1,342.3億円	約541.0億円	約734.7億円	約3,445.3億円
2017年	約784.2億円	約1,108.4億円	約686.6億円	約632.0億円	約3,211.2億円
2018年	約925.3億円	約1,225.3億円	約588.2億円	約649.5億円	約3,388.2億円
2019年	約996.3億円	約1,442.2億円	約487.5億円	約647.0億円	約3,573.0億円

※合計消費額は端数処理（四捨五入）により各項目の合計と一致しない

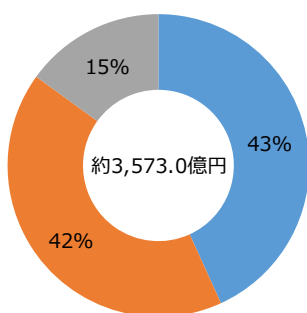
2019年の国際会議【C】の消費額の割合を主催者・参加者・出展者別にみると、主催者の消費額は43%、参加者の消費額もほぼ同様の42%、出展者の消費額は15%となった。

2019年の国際会議【C】の消費額の割合を地域・分野別にみると、三大都市圏の医学分野は28%、三大都市圏の医学以外の分野は40%、その他都市の医学分野は14%、その他都市の医学以外の分野は18%となった。地域ごとでは、三大都市圏が68%、その他都市が32%となった。分野ごとでは、医学分野が42%、医学以外の分野が58%となった。

国際会議【C】の総消費額（2019年）

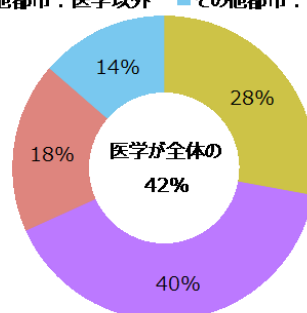
主催者・参加者・出展者別

■主催者 ■参加者 ■出展者



地域・分野別

■三大都市：医学 ■三大都市：医学以外
■その他都市：医学以外 ■その他都市：医学



※三大都市圏：本調査においては、首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）、名古屋圏（愛知県、岐阜県）、大阪圏（大阪府、京都府、奈良県、兵庫県）と定義した

④総消費額の分析結果：国際会議【C】－3

三大都市圏で開催された医学分野での国際会議【C】の参加者は、2019年は2018年に比べ、日本人は約13%増加、外国人は約18%減少した。一方で、三大都市圏で開催された医学以外の分野での国際会議【C】の参加者は、2019年は2018年に比べ、日本人は約22%増加、外国人は約10%増加した。2019年は2018年に比べ国際会議【C】の参加者は増加しているが、三大都市圏で開催された医学以外の分野での国際会議【C】のうち日本人参加者数の伸びが顕著となっている。

その他都市で開催された医学分野での国際会議【C】の参加者数は、2017年は2016年と比べ日本人は約28%増加、外国人は約13%増加したが、2018年は2017年と比べ日本人は約15%減少、外国人は約3.7%減少した。その他都市で開催された医学分野での国際会議【C】の参加者数の減少傾向は2019年においても続いており、2019年は2018年と比べ、その他都市で開催された医学分野での国際会議【C】の参加者数が日本人・外国人ともに約17%減少した。

その他都市で開催された医学以外の分野での国際会議【C】の参加者においても、2019年は2018年に比べ日本人は約0.5%減少、外国人においても5名と微減した。

国際会議【C】の参加者数（2016-2019年）

参加者	年	三大都市圏		その他都市		計
		医学	医学以外	医学	医学以外	
日本人	2016年	495,615人	623,386人	216,962人	310,417人	1,646,380人
	2017年	492,630人	507,131人	277,229人	262,289人	1,539,279人
	2018年	587,493人	537,070人	235,797人	269,737人	1,630,097人
	2019年	661,542人	654,976人	195,480人	268,398人	1,780,396人
外国人	2016年	40,517人	109,933人	7,924人	57,752人	216,126人
	2017年	31,273人	93,493人	8,973人	52,909人	186,648人
	2018年	34,944人	111,747人	8,642人	54,264人	209,597人
	2019年	28,593人	123,400人	7,142人	54,259人	213,394人
計	2016年	536,132人	733,319人	224,886人	368,169人	1,862,506人
	2017年	523,903人	600,624人	286,202人	315,198人	1,725,927人
	2018年	622,437人	648,817人	244,439人	324,001人	1,839,694人
	2019年	690,135人	778,376人	202,622人	322,657人	1,993,790人

④総消費額の分析結果：国際会議【C】－４

主催者の消費額について、2019年の医学分野の消費額は約771.3億円と2016年比で110%、2018年比で98%となった。2019年の医学以外の分野の消費額は約771.9億円と2016年比で97%、2018年比で110%となった。2019年の三大都市圏の消費額は約899.0億円と4年間で最も多く、2019年のその他都市の消費額は約644.2億円と4年間で最も少ない。

出展者の消費額について、2019年の医学分野の消費額は約92.9億円、2019年の医学以外の分野の消費額が約443.8億円とどちらの分野も4年間で最も多くなった。2019年の三大都市圏の消費額は約503.9億円と4年間で最も多く、2019年のその他都市の消費額は約32.8億円と4年間で最も少ない。

日本人参加者の消費額について、2019年の医学分野の消費額は約503.3億円と4年間で最も多くなった。2019年の医学以外の消費額は約423.3億円となった。2019年の三大都市圏の消費額は約573.4億円と4年間で最も多く、その他都市の消費額は約353.2億円と4年間で最も少ない。

外国人参加者の消費額について、2019年の医学分野の消費額は約116.4億円と4年間で最も少なく、医学以外の消費額は約450.2億円と4年間で最も多くなった。2019年の三大都市圏の消費額は約462.2億円となった。その他都市の消費額は約104.4億円と4年間で最も少ない。

主催者の消費額

	年	三大都市圏	その他都市	計
医学	2016年	約359.3億円	約342.8億円	約702.1億円
	2017年	約351.1億円	約436.2億円	約787.3億円
	2018年	約417.1億円	約372.6億円	約789.7億円
	2019年	約462.5億円	約308.8億円	約771.3億円
医学以外	2016年	約411.3億円	約382.6億円	約793.9億円
	2017年	約336.9億円	約327.6億円	約664.4億円
	2018年	約363.9億円	約336.7億円	約700.6億円
	2019年	約436.5億円	約335.3億円	約771.9億円
計	2016年	約770.6億円	約725.4億円	約1,496.0億円
	2017年	約687.9億円	約763.8億円	約1,451.8億円
	2018年	約781.0億円	約709.3億円	約1,490.3億円
	2019年	約899.0億円	約644.2億円	約1,543.2億円

出展者の消費額

	年	三大都市圏	その他都市	計
医学	2016年	約66.2億円	約8.4億円	約74.7億円
	2017年	約64.7億円	約10.7億円	約75.5億円
	2018年	約76.9億円	約9.2億円	約86.1億円
	2019年	約85.3億円	約7.6億円	約92.9億円
医学以外	2016年	約394.4億円	約28.7億円	約423.1億円
	2017年	約323.0億円	約24.6億円	約347.6億円
	2018年	約348.9億円	約25.3億円	約374.2億円
	2019年	約418.6億円	約25.2億円	約443.8億円
計	2016年	約460.6億円	約37.2億円	約497.8億円
	2017年	約387.7億円	約35.3億円	約423.1億円
	2018年	約425.8億円	約34.4億円	約460.3億円
	2019年	約503.9億円	約32.8億円	約536.7億円

参加者（日本人）の消費額

	年	三大都市圏	その他都市	計
医学	2016年	約262.3億円	約169.9億円	約432.3億円
	2017年	約260.8億円	約217.1億円	約477.9億円
	2018年	約311.0億円	約184.7億円	約495.7億円
	2019年	約350.2億円	約153.1億円	約503.3億円
医学以外	2016年	約212.5億円	約231.4億円	約443.9億円
	2017年	約172.9億円	約195.5億円	約368.4億円
	2018年	約183.1億円	約201.1億円	約384.1億円
	2019年	約223.3億円	約200.1億円	約423.3億円
計	2016年	約474.8億円	約401.3億円	約876.1億円
	2017年	約433.6億円	約412.6億円	約846.3億円
	2018年	約494.0億円	約385.7億円	約879.8億円
	2019年	約573.4億円	約353.2億円	約926.6億円

参加者（外国人）の消費額

	年	三大都市圏	その他都市	計
医学	2016年	約139.4億円	約19.9億円	約159.4億円
	2017年	約107.6億円	約22.6億円	約130.2億円
	2018年	約120.3億円	約21.7億円	約142.0億円
	2019年	約98.4億円	約18.0億円	約116.4億円
医学以外	2016年	約324.1億円	約92.0億円	約416.1億円
	2017年	約275.6億円	約84.3億円	約359.9億円
	2018年	約329.4億円	約86.4億円	約415.8億円
	2019年	約363.8億円	約86.4億円	約450.2億円
計	2016年	約463.5億円	約111.9億円	約575.4億円
	2017年	約383.2億円	約106.8億円	約490.1億円
	2018年	約449.7億円	約108.1億円	約557.8億円
	2019年	約462.2億円	約104.4億円	約566.6億円

※合計消費額は端数処理（四捨五入）により各項目の合計と一致しない

⑤総消費額の分析結果：展示会・見本市【E】－ 1

2019年の展示会・見本市【E】の消費額は、約1,619.0億円と2016年比で198%（約802.8億円増）となった。内訳をみると、主催者消費額は約178.4億円と2018年比で93%（約13.6億円減）、日本人参加者数は約503.3億円と2018年比で111%（約48.2億円増）、外国人参加者数は約331.0億円と2018年比で99%（約2.2億円減）、出展者消費額は約606.3億円と2018年比で96%（約27.7%億円減）となった。2018年と比較すると、集計対象となる展示会は2018年の48件から2019年の70件に増加している一方、ほぼ同様の消費額になった。この要因として、今回有効回答となった展示会について、アンケート調査票から集計した展示会場総面積と総出展面積がともに前年度より減少したため、主催者消費額と出展者消費額がそれぞれ減少したこと、消費単価が高い外国人参加者数が減少したことの2点が挙げられる。

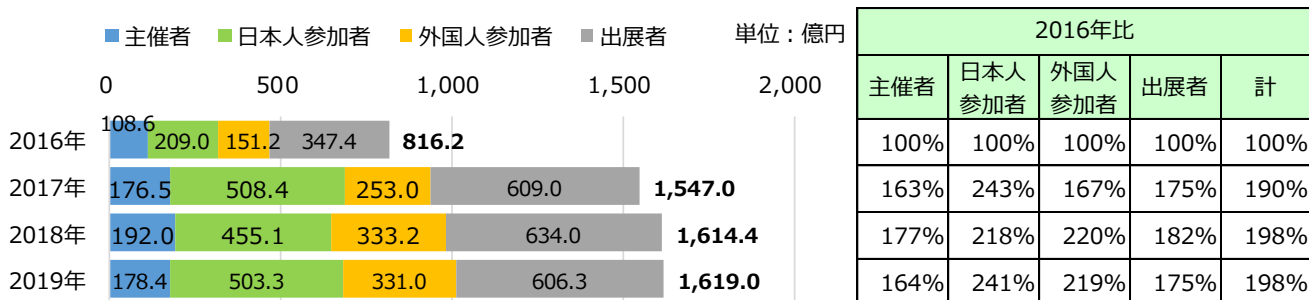
一方、展示会・見本市【E】の消費額の各項目は2016年比で全て増加しており、主催者消費額は164%（約69.8億円増）、日本人参加者数は241%（約294.3億円増）、外国人参加者数は219%（約179.8億円増）、出展者消費額は175%（約258.9億円増）となった。

展示会・見本市【E】の消費額（2016-2019年）

年	主催者消費額	参加者消費額		出展者消費額	計	集計対象 開催件数
		日本人	外国人			
2016年	約108.6億円	約209.0億円	約151.2億円	約347.4億円	約816.2億円	23件
2017年	約176.5億円	約508.4億円	約253.0億円	約609.0億円	約1,547.0億円	41件
2018年	約192.0億円	約455.1億円	約333.2億円	約634.0億円	約1,614.4億円	48件
2019年	約178.4億円	約503.3億円	約331.0億円	約606.3億円	約1,619.0億円	70件

※合計消費額は端数処理（四捨五入）により各項目の合計と一致しない

展示会・見本市【E】の消費額（2016-2019年）



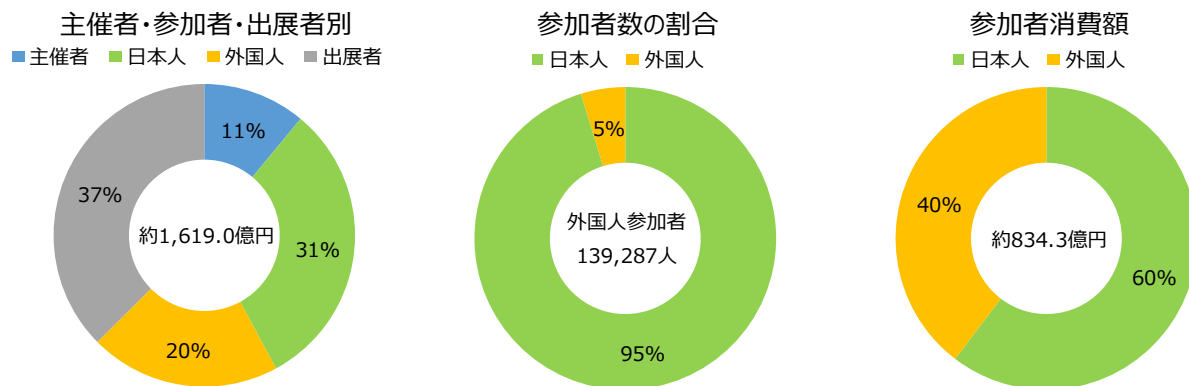
⑤ 総消費額の分析結果：展示会・見本市【E】－ 2

2019年の展示会・見本市【E】の消費額の割合を主催者・参加者・出展者別にみると、主催者は11%、日本人参加者は31%、外国人参加者は20%、出展者は37%となった。

2019年の展示会・見本市【E】の参加者数の割合は、日本人が95%、外国人が5%となった。

2019年の展示会・見本市【E】の参加者消費額の割合は、日本人が60%、外国人が40%となった。参加者のうち外国人が占める割合が5%であるが、外国人の消費単価が高いため、参加者消費額の40%を外国人が占めている。

展示会・見本市【E】の総消費額（2019年） ※構成比は端数処理（四捨五入）により合計が必ずしも100とはならない

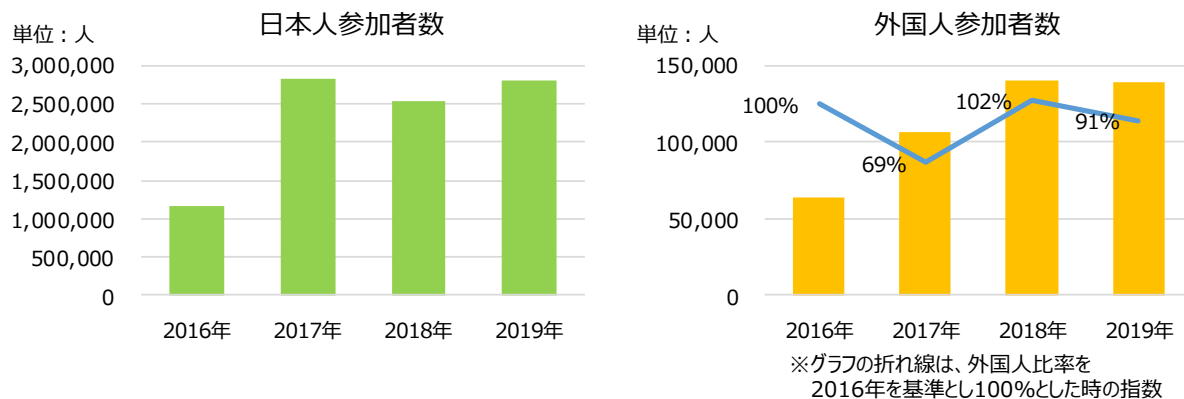


2019年の展示会・見本市【E】の参加者数は、2,930,700人と2016年比で240%（1,707,818人増）、2018年比で110%（266,260人増）となった。内訳みると、日本人参加者数は2,791,413人と2016年比で241%（1,632,170人増）、2018年比で111%（267,201人増）となり、外国人参加者数は139,287人と2016年比で219%（75,648人増）、2018年比で99%（941人減）となった。総参加者数に対する外国人参加者の比率は、年によってばらつきが見られる。

展示会・見本市【E】の参加者数（2016-2019年）

年	日本人参加者数	外国人参加者数（外国人比率）	総参加者数
2016年	1,159,243人	63,639人（5.2%）	1,222,882人
2017年	2,819,772人	106,498人（3.6%）	2,926,270人
2018年	2,524,212人	140,228人（5.3%）	2,664,440人
2019年	2,791,413人	139,287人（4.8%）	2,930,700人

展示会・見本市【E】の参加者数の推移（2016-2019年）



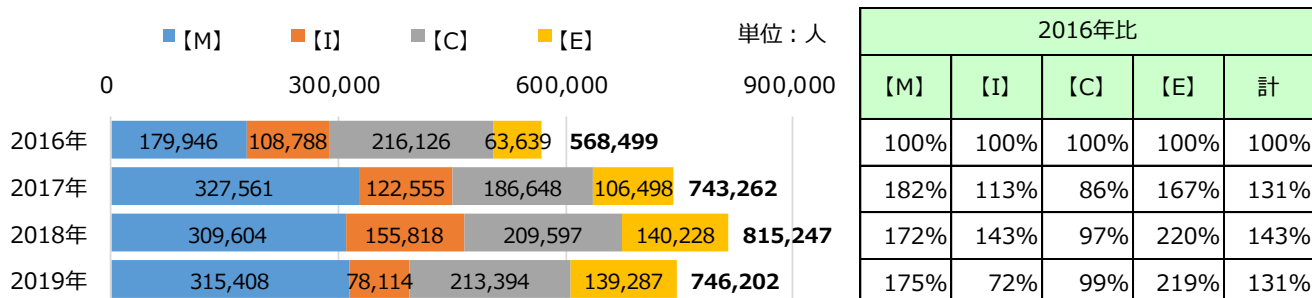
⑥総消費額の分析結果：外国人参加者数の推移と消費額について

2019年の国際MICEの外国人参加者数は、746,202人と2016年比で131%（177,703人増）、2018年比で92%（69,045人減）となった。企業会議【M】は、315,408人と2016年比で175%（135,462人増）、2018年比で102%（5,804人増）となった。報奨・研修旅行【I】は、78,114人と2016年比で72%（30,674人減）、2018年比で50%（77,704人減）となった。国際会議【C】は、213,394人と2016年比で99%（2,732人減）、2018年比で102%（3,797人増）となった。展示会・見本市【E】は、139,287人と2016年比で219%（75,648人増）、2018年比で99%（941人減）となった。

国際MICE 外国人参加者数推移（2016-2019年）

年	企業会議【M】	報奨・研修旅行【I】	国際会議【C】	展示会・見本市【E】	計
2016年	179,946人	108,788人	216,126人	63,639人	568,499人
2017年	327,561人	122,555人	186,648人	106,498人	743,262人
2018年	309,604人	155,818人	209,597人	140,228人	815,247人
2019年	315,408人	78,114人	213,394人	139,287人	746,202人

国際MICE 外国人参加者数推移（2016-2019年）



⑥総消費額の分析結果：外国人参加者数の推移と消費額について

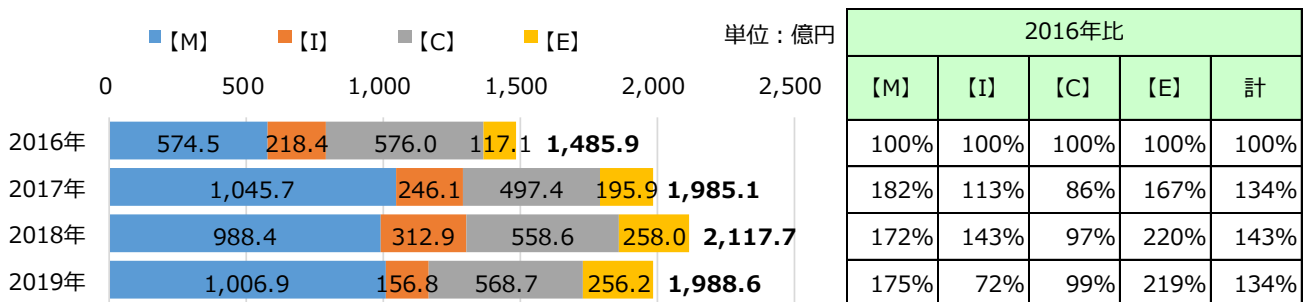
2019年の国際MICEの外国人消費相当額は、約1,988.6億円と2016年比で134%（約503億円増）、2018年比で94%（約129億円減）となった。企業会議【M】は、約1,006.9億円と2016年比で175%（約432億円増）、2018年比で102%（約18億円増）となった。報奨・研修旅行【I】は、約156.8億円と2016年比で72%（約62億円減）、2018年比で50%（約156億円減）となった。国際会議【C】は、約568.7億円と2016年比で99%（約7億円減）、2018年比で102%（約10億円増）となった。展示会・見本市【E】は、約256.2億円と2016年比で219%（約139億円増）、2018年比で99%（約2億円減）となった。

国際MICE 外国人消費相当額推移（2016-2019年）

年	企業会議【M】	報奨・研修旅行【I】	国際会議【C】	展示会・見本市【E】	計
2016年	約574.5億円	約218.4億円	約576.0億円	約117.1億円	約1,485.9億円
2017年	約1,045.7億円	約246.1億円	約497.4億円	約195.9億円	約1,985.1億円
2018年	約988.4億円	約312.9億円	約558.6億円	約258.0億円	約2,117.7億円
2019年	約1,006.9億円	約156.8億円	約568.7億円	約256.2億円	約1,988.6億円

※外国人消費相当額については、国際交通費を除く外国人参加者1名当たりの総消費額を用いて算出
 ※合計消費額は端数処理（四捨五入）により各項目の合計と一致しない

国際MICE 外国人総消費相当額の内訳（2016-2019年）※国際交通費を除く



⑦MICE全体目標に対する達成率

外国人消費相当額に日本人参加者、主催者、出展者の消費額及び外国人参加者の国際交通費を加えた2019年の国際MICE全体の総消費額は、約9,228.6億円で、2016年比171%、2017年比132%、2018年比113%となった。

2018年に策定された「MICE国際競争力強化委員会 提言」において、MICE関連訪日外国人消費相当額の官民挙げて目指すべきMICE全体の目標「2020年3,000億円」「2030年8,000億円」が設定された。2019年の外国人消費相当額は、1,988.6億円で、2020年目標達成率が66.3%、2030年目標達成率が24.9%と2017年とほぼ同様となった。

外国人消費相当額（国際交通費除く）の達成率：2019年実績値 1,988.6億円（66.3%）

	目標額	2016年	2017年	2018年	2019年
2020年目標達成率	3,000億円	49.5%	66.2%	70.6%	66.3%
2030年目標達成率	8,000億円	18.6%	24.8%	26.5%	24.9%

⑧今後の継続調査に向けた課題整理

継続調査に向けた課題整理

今回のアンケート調査では、昨年度と同様に企業会議【M】の取扱いがあるにもかかわらず、旅行業者利用率をゼロまたはおおよその数値もわからない（本年度の調査で設けた選択肢）と回答するケースがあった。昨年度に比べ質問を回答者が理解しやすいように変更したが、補足説明を加える等、さらなる工夫を行う必要がある。

企業会議【M】の消費額算出では、観光庁指定の主要旅行業者のうち、アンケート回答がなかった旅行業者の取扱い人数は全体におけるシェアをもとに推計している（P.6参照）。また、アンケート回答があった旅行業者でも、企業会議【M】の種類、すなわち「企業ミーティング」、「研修・視察」、「顧客セミナー」、「式典」のいずれか1項目でも「取扱いあり」としなかった場合、ゼロとしてではなく未回答として扱い、その部分も含めて推計の対象に含めている。この推計方法は本調査の開始時からの手法であるが、その妥当性については引き続き検討していく必要がある。

企業会議【M】においては、事業者毎の数値に大幅な増減がみられる。回答者にフォローアップを行ったところ、社内精査の結果調査対象として認識された案件が拡大した、あるいは、昨年度から担当者が変更になっていたため集計方法（カウント方法等）に変更が生じた、といった事象が確認された。このことから、調査対象の定義について改めて確認を促すとともに、同一企業内で集計方法（カウント方法）について統一いただくことや、年度をまたぐ引継ぎの強化をお願いする必要がある。

国際会議【C】では、本調査において三大都市とその他都市、及び医学と医学以外のカテゴリで分類したが、成長している分野の国際会議を抽出・整理するなど調査について検討が必要である。

本年度調査より、アンケートに回答をいただいた企業向けに報告書の送付の希望有無についての設問を追加したところ、フォローアップ前の回答率についてはどの調査も向上した。

本年度調査では、各調査ごとに複数回のフォローアップを実施した。その際にいただいた意見として、「任意であれば回答したくない」や「回答のレベル感についてはこの程度（無回答箇所多数）でお願いしたい」が多くあった。そのため今後の調査では、本調査の重要性や活用方法、また回答者に有益なフィードバックの実施を行う等、さらなる工夫を行う必要がある。

企業会議【M】の旅行業者利用率

観光庁旅行業取扱額対象企業の旅行業者利用率を企業会議【M】の種類別にみると、企業内会議は2018年度の30.0%から2019年度が48.9%と増加し2020年度が31.0%と減少した。顧客セミナーは2018年度の19.2%から2019年度が58.0%と増加し2020年度が52.5%とやや減少した。研修・視察は2018年度の24.4%から2019年度が55.0%と増加し2020年度が46.4%と減少した。式典は2018年度の22.5%から2019年度が40.0%と増加し、2020年度は2019年度と同様となった。

企業会議【M】のアンケート調査において、旅行業者利用率については2017年度～2020年度の4回の調査で数字に大きな変化が見られた。そのため、過去の調査蓄積を活かすことを踏まえ、2019年度調査については2017年度～2019年度調査の3年間の平均値を採用し、2020年度調査も同様に2018年度～2020年度調査の3年間の平均値を採用した。

旅行業者利用率

	2017年度調査		2018年度調査		2019年度調査		2020年度調査	
	観光庁旅行業 取扱額 対象企業	その他	観光庁旅行業 取扱額 対象企業	その他	観光庁旅行業 取扱額 対象企業	その他	観光庁旅行業 取扱額 対象企業	その他
企業内会議	32.0%	30.0%	30.0%	40.1%	48.9%	31.7%	31.0%	50.0%
顧客セミナー	20.0%	10.0%	19.2%	51.7%	58.0%	60.0%	52.5%	50.0%
研修・視察	31.7%	34.4%	24.4%	40.5%	55.0%	42.9%	46.4%	47.4%
式典	33.3%	22.5%	22.5%	20.0%	40.0%	17.6%	40.0%	60.0%

3. 資料編

観光庁 MICE 総消費額等調査事業

企業会議等に関するアンケート (2019 年度実施分)

質問項目は以下となります。事前に回答内容をご準備いただいた上で、ご記入下さい。

ご回答者様について

1. 企業名		
2. 〒/都道府県名	〒 -	(都・道・府・県)
3. 住所		
4. ビル名		
5. 役職/担当者名	【役職】	【担当者名】
6. TEL/内線	【TEL】	【内線】
7. E-mail		

貴社についてお伺いいたします。

Q1. 貴社の名称をご記入下さい。

Q2. 以下のうち、貴社が取扱っている企業会議等に「○」をお付け下さい。(複数選択可)

1. 企業内ミーティング	2. 顧客セミナー	3. 研修・視察
4. 式典	5. 取扱っていない ⇒アンケート終了	

Q3. アンケートにお答え頂いた皆様の中でご希望の方には、今回実施しております MICE 総消費額等調査事業の報告書をお送りします。ご希望される方は、希望するに☐をお付け下さい。

希望する

※ 次ページでは、貴社において取扱いのある企業会議等に関してお伺いいたします。2019 年度に開催された催事に関してお答え下さい。貴社の会計年度等に応じて直近 1 年の数値をご記入いただければ結構です。

ない場合は「0」を、おおよその数値も分からない場合は「斜線」をご記入下さい。

企業内ミーティング (Q2 で『1. 企業内ミーティング』を選択した方のみ)

※ない場合は「0」を、おおよその数値も分からない場合は「斜線」をご記入下さい。

Q4. 企業内ミーティングの内、主催者企業が直接ではなく旅行業者を通して会議室等を手配すると思われる割合 (件数ベース) をご記入下さい。
※ 市場規模の推計に利用します。おおよその割合で構いませんのでご回答下さい。

約	割
---	---

Q5. 貴社が取扱った企業内ミーティングの年間取扱い件数をご記入下さい。

約	件
---	---

Q6. Q5 でご回答された件数のうち、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会 (以下、「RWC2019」とする) に関連する件数をご記入下さい。

約	件
---	---

Q7. 貴社が取扱った企業内ミーティングの年間取扱い人数をご記入下さい。

約	人
---	---

Q8. Q7 でご回答された人数のうち、「RWC2019」に関連する人数をご記入下さい。

約	人
---	---

Q9. Q7 でご回答された人数のうち、外国からの外国人参加者数の割合をご記入下さい。(貴社の実績ベースでご回答下さい)

約	割
---	---

顧客セミナー (Q2 で『2. 顧客セミナー』を選択した方のみ)

※ない場合は「0」を、おおよその数値も分からない場合は「斜線」をご記入下さい。

Q10. 顧客セミナーの内、主催者企業が直接ではなく旅行業者を通して会議室等を手配すると思われる割合 (件数ベース) をご記入下さい。
※ 市場規模の推計に利用します。おおよその割合で構いませんのでご回答下さい。

約	割
---	---

Q11. 貴社が取扱った顧客セミナーの年間取扱い件数をご記入下さい。

約	件
---	---

Q12. Q11 でご回答された件数のうちラグビーワールドカップ 2019 日本大会 (以下、「RWC2019」とする) に関連する件数をご記入下さい。

約	件
---	---

Q13. 貴社が取扱った顧客セミナーの年間取扱い人数をご記入下さい。

約	人
---	---

Q14. Q13 でご回答された人数のうち、「RWC2019」に関連する人数をご記入下さい。

約	人
---	---

Q15. Q13 でご回答された人数のうち、外国からの外国人参加者数の割合をご記入下さい。(貴社の実績ベースでご回答下さい)

約	割
---	---

研修・視察 (Q4で『3.研修・視察』を選択した方のみ)

※ない場合は「0」を、おおよその数値も分からない場合は「斜線」をご記入下さい。

Q16. 研修・視察 の内、主催者企業が直接ではなく**旅行者を通して会議室等**
を手配すると思われる割合 (件数ベース) をご記入下さい。
※ 市場規模の推計に利用します。おおよその割合で構いませんのでご回答下さい。

約	割
---	---

Q17. 貴社が取扱った研修・視察の**年間取扱い件数**をご記入下さい。

約	件
---	---

Q18. Q17 でご回答された件数のうち、**ラグビーワールドカップ 2019 日本大会**
(以下、「RWC2019」とする) に関連する件数をご記入下さい。

約	件
---	---

Q19. 貴社が取扱った研修・視察のうち、**年間取扱い人数**をご記入下さい。

約	人
---	---

Q20. Q19 でご回答された人数のうち、「**RWC2019**」に**関連する人数**を
ご記入下さい。

約	人
---	---

Q21. Q19 でご回答された人数のうち、**外国からの外国人参加者数の割合**を
ご記入下さい。(貴社の実績ベースでご回答下さい)

約	割
---	---

式典 (Q2で『4.式典』を選択した方のみ)

※ない場合は「0」を、おおよその数値も分からない場合は「斜線」をご記入下さい。

Q22. 式典 の内、主催者企業が直接ではなく**旅行者を通して会議室等を**
手配すると思われる割合 (件数ベース) をご記入下さい。
※ 市場規模の推計に利用します。おおよその割合で構いませんのでご回答下さい。

約	割
---	---

Q23. 貴社が取扱った**式典の年間取扱い件数**をご記入下さい。

約	件
---	---

Q24. Q23 でご回答された件数のうち、**ラグビーワールドカップ 2019 日本大会**
(以下、「RWC2019」とする) に関連する件数をご記入下さい。

約	件
---	---

Q25. 貴社が取扱った式典のうち、**年間取扱い人数**をご記入下さい。

約	人
---	---

Q26. Q25 でご回答された人数のうち、「**RWC2019**」に**関連する人数**をご記入
下さい。

約	人
---	---

Q27. Q25 でご回答された人数のうち、**外国からの外国人参加者数の割合**を
ご記入下さい。(貴社の実績ベースでご回答下さい)

約	割
---	---

観光庁 MICE 総消費額等調査事業

報奨・研修旅行等に関するアンケート (2019 年度実施分)

質問項目は以下となります。事前に回答内容をご準備いただいた上で、ご記入下さい。

ご回答者様について

1. 企業名		
2. 〒/都道府県名	〒 -	(都・道・府・県)
3. 住所		
4. ビル名		
5. 役職/担当者名	【役職】	【担当者名】
6. TEL/内線	【TEL】	【内線】
7. E-mail		

A. 貴社についてお伺いいたします。

Q1. 貴社の名称をご記入下さい。

Q2. 企業が主催する海外発の報奨・研修旅行等の取扱い実績の有無についてあてはまるものをお答え下さい。

1. 取扱っている	2. 取扱っていない ⇒アンケート終了
-----------	---------------------

Q3. アンケートにお答え頂いた皆様の中でご希望の方には、今回実施しております MICE 総消費額等調査事業の報告書をお送りします。ご希望される方は、希望するに☑をお付け下さい。

希望する

B. Q2 で「取扱っている」と回答した方にお聞きします。

お取扱いのある海外発の報奨・研修旅行等についてお伺いします。2019 年に取扱いのあった催事に関してお答え下さい。貴社会計年度等に合わせた直近 1 年間の数値をご記入下さい。

ない場合は「0」を、おおよその数値も分からない場合は「斜線」をご記入下さい。

※複数の国・地域からの参加者がいる催事につきましては、主たる参加者の国・地域でご回答下さい。

※アジアの定義については下記をご参考下さい。

<アジアの国・地域>

インド、インドネシア、カンボジア、シンガポール、スリランカ、タイ、中国、台湾、マカオ、香港、ネパール、パキスタン、
バングラデシュ、東ティモール、フィリピン、ブータン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、モルディブ、モンゴル、ラオス

※ない場合は「0」を、おおよその数値も分からない場合は「斜線」をご記入下さい。

Q4. 全体の年間取扱件数をご記入下さい。

約	件
---	---

Q5. Q4(全体の年間取扱件数)のうち、アジア発案件の件数をご記入下さい。

約	件
---	---

Q6. Q5 (アジア発案件) のうち、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会 (以下、「RWC2019」) に関連する件数をご記入下さい。

約	件
---	---

Q7. Q4(全体の年間取扱件数)のうち、欧米・その他発案件の件数をご記入下さい。

約	件
---	---

Q8. Q7 (欧米・その他初案件) のうち、RWC2019 に関連する件数をご記入下さい。

約	件
---	---

※ない場合は「0」を、おおよその数値も分からない場合は「斜線」をご記入下さい。

Q9. 全体の年間取扱い人数をご記入下さい。

約	人
---	---

Q10. Q9 (全体の年間取扱い人数) のうち、アジア発案件の人数をご記入下さい。

約	人
---	---

Q11. Q10 (アジア発案件)のうち、RWC2019 に関連する人数をご記入下さい。

約	人
---	---

Q12. Q9 (全体の年間取扱い人数) のうち、欧米・その他発案件の人数をご記入下さい。

約	人
---	---

Q13. Q12 (欧米・その他初案件) のうち、RWC2019 に関連する人数をご記入下さい。

約	人
---	---

※ない場合は「0」を、おおよその数値も分からない場合は「斜線」をご記入下さい。

【アジア発】

Q14. アジア発、参加者 100 人未満の案件の年間取扱件数をご記入下さい。

約 件

Q15. アジア発、参加者 100 人未満の案件の年間取扱人数をご記入下さい。

約 人

Q16. アジア発、参加者 100 人以上の案件の年間取扱件数をご記入下さい。

約 件

Q17. アジア発、参加者 100 人以上の案件の年間取扱人数をご記入下さい。

約 人

※ない場合は「0」を、おおよその数値も分からない場合は「斜線」をご記入下さい。

【欧米・その他発】

Q18. 欧米・その他発、参加者 100 人未満の案件の年間取扱件数をご記入下さい。

約 件

Q19. 欧米・その他発、参加者 100 人未満の案件の年間取扱人数をご記入下さい。

約 人

Q20. 欧米・その他発、参加者 100 人以上の案件の年間取扱件数をご記入下さい。

約 件

Q21. 欧米・その他発、参加者 100 人以上の案件の年間取扱人数をご記入下さい。

約 人

観光庁 MICE 総消費額等調査事業

展示会・見本市主催者アンケート (2019 年度実施分)

質問項目は以下となります。事前に回答内容をご準備いただいた上で、ご記入下さい。

ご回答者様について

1. 企業名		
2. 〒/都道府県名	〒 -	(都・道・府・県)
3. 住所		
4. ビル名		
5. 役職/担当者名	【役職】	【担当者名】
6. TEL/内線	【TEL】	【内線】
7. E-mail		

アンケートにお答え頂いた皆様の中でご希望の方には、今回実施しております MICE 総消費額等調査事業の報告書をお送りします。ご希望される方は、希望するに☐をお付け下さい。

希望する

2019 年 (1 月～12 月) に貴社が主催された催事に関して伺います。

数値の回答は、ない場合は「0」を、おおよその数値も分からない場合は「斜線」をご記入下さい。

Q1. 封筒に記載の対象展示会・見本市の名称をご記入下さい。

Q2. 対象展示会・見本市の開催期間をご記入下さい。 2019 年 月 日 ~ 月 日

【裏面に続く】

Q3. **総来場者数** (出展者は除く) をご記入下さい。

約 人

※ 延べ人数ではなく、実人数をご記入下さい。詳細な実人数が不明な場合はおおよその人数をご記入下さい。

Q4. 来場者のうち、海外からの**外国人参加者数**をご記入下さい。

約 人

※ 延べ人数ではなく、実人数をご記入下さい。詳細な実人数が不明な場合はおおよその人数をご記入下さい。

Q5. 来場者のうち、ビジネス目的の参加者と一般参加者のおおよその**比率**をご記入下さい。

【ビジネス目的の参加者】 : 【一般参加者】 = 約 割 : 約 割

Q6. **総出展者** (団体) **数**をご記入下さい。

約 社

Q7. **総出展小間数**をご記入下さい。

約 小間

※1 小間は 3×3mを想定。

約 m²

1 小間の広さが著しく異なる場合はm数でご回答下さい。

Q8. 出展者のうち、海外からの外国企業の**出展者数**をご記入下さい。

約 社

Q9. 出展者のうち、海外からの外国企業の**出展小間数**をご記入下さい。

約 小間

※1 小間は 3×3mを想定。

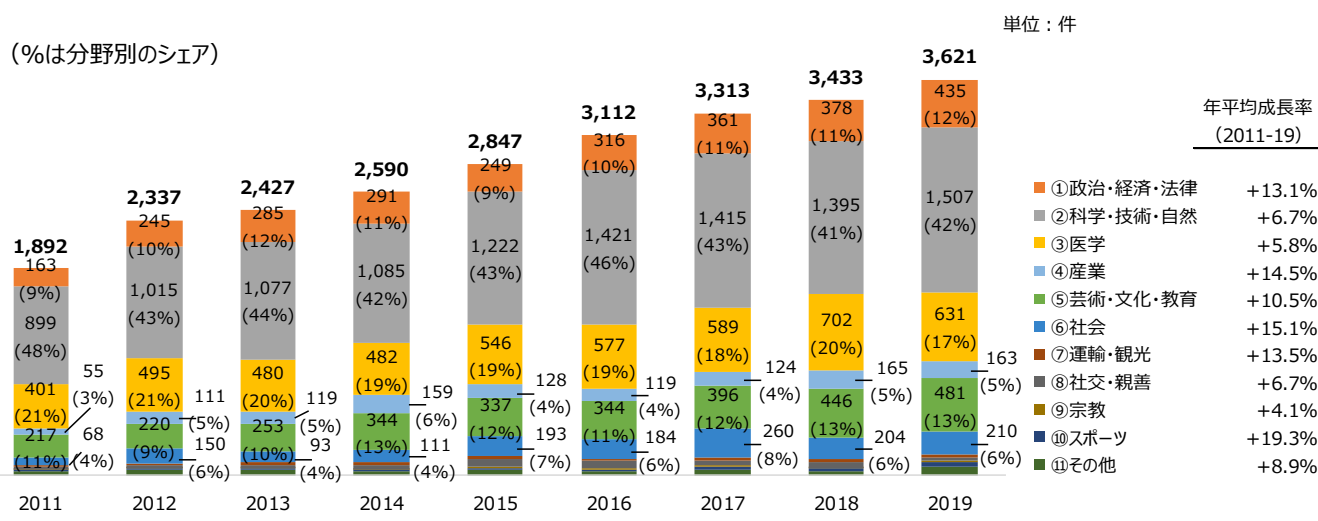
約 m²

1 小間の広さが著しく異なる場合はm数でご回答下さい。

(参考) 総消費額の分析結果：国際会議【C】

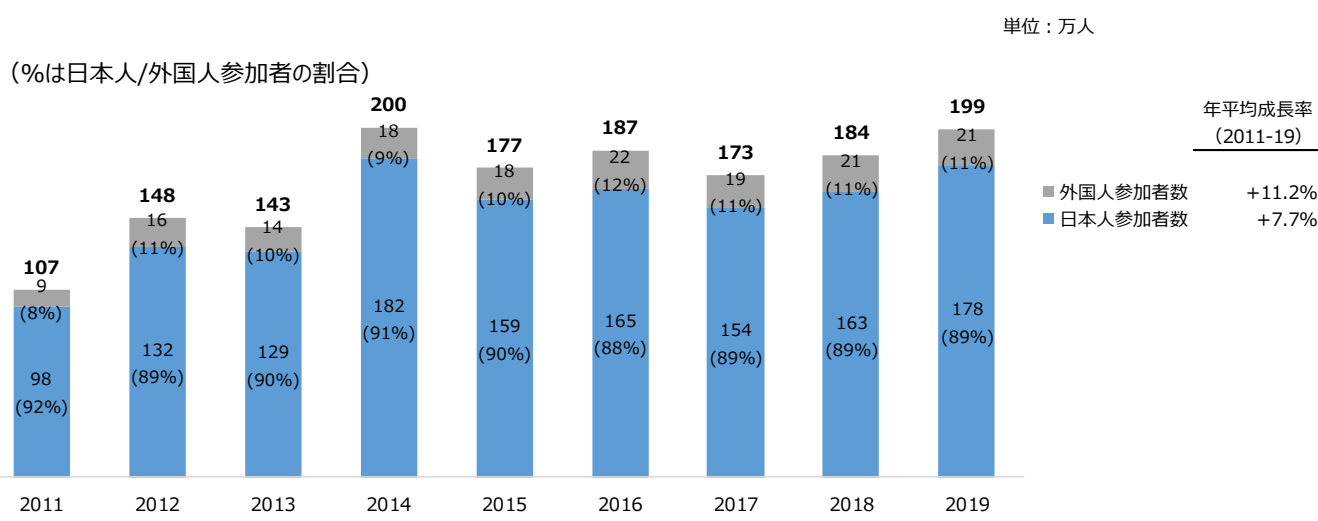
分野別・国際会議【C】開催件数の推移

国際会議【C】の開催件数は、2011年の1,892件から右肩上がり伸びており、2019年は3,621件となった。日本で最も開催されている国際会議【C】の分野は②科学・技術・自然であり、次いで③医学である。



日本人/外国人別・国際会議【C】参加者数の推移

国際会議【C】の参加者数は、2014年の200万人をピークに伸びが止まり、2015年の177万人から2016年は187万人と増加、2017年で173万人と減少、2019年は199万人と増加し、2014年のピーク時とほぼ同様の人数となった。



(参考) アンケート対象となる国際展示会の抽出方法

昨年度（2019年度）調査では、2018年度（平成30年度）の事業報告書及び関係する事業者の意見を参考にしながら、3つのデータ（日本展示会認証協議会より国際展示会認証を受けた展示会リスト、POP出版の2020年度版「展示会データベース」、日本展示会協会より国際展示会に匹敵すると判断された展示会のリスト）から、一定の抽出基準を用いて、調査対象となる展示会のリストを作成した。本年度（2020年度）調査でも昨年度と同様に以下の3つのデータから調査対象となる展示会のリストを作成した。

展示会データの種類ごとの抽出基準

#	展示会データの種類	抽出基準
1	日本展示会認証協議会より、国際展示会認証を受けた展示会のリスト	<ul style="list-style-type: none">2019年開催時においては、認証期限が切れている展示会も含め、一度認証を受けており、2019年に開催された展示会を全て抽出
2	POP出版の2020年度版「展示会データベース」	<ul style="list-style-type: none">3万㎡以上の展示会に関しては全て抽出3万㎡未満の展示会に関して、パシフィコ横浜で開催されているものを中心に一部抽出
3	日本展示会協会より、国際展示会に匹敵すると判断された展示会のリスト	<ul style="list-style-type: none">2019年に開催された展示会について全て抽出

上記3つのデータから抽出した展示会の重複をなくして、
計185件の展示会を調査対象のリストとして作成した（2019年度調査では141件）